

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

鍼灸スポーツ科学科3年生

令和8年度 シラバス

氏名 _____

授業科目名	保健体育			授業形態	講義	教員	高橋孝義		No.	36
科目区分	専門基礎分野	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生	
授業概要	運動によって健康を保持増進させ、トレーニング機器や自分の身体を使い、身体の仕組みや動きを色々な運動を通じて体験学習する。様々なストレッチ体操を体験し、基礎を習得する。スポーツ障害予防と主な外傷の救急対応									
授業の到達目標	様々なストレッチ体操を体験し、習得する。 正しいトレーニングを覚え、正しいトレーニング機器の使い方を体験する トレーニングの一連の流れを計画、指導実践できるようにする。 スポーツ障害予防のためのストレッチとトレーニングの会得									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション 第2週目 ストレッチ1 第3週目 ストレッチ2 第4週目 ストレッチ3 第5週目 ストレッチ4 第6週目 ストレッチ5 第7週目 パーソナルトレーニング1 第8週目 パーソナルトレーニング2 第9週目 パーソナルトレーニング3 第10週目 パーソナルトレーニング4 第11週目 トレーニング機器1 第12週目 トレーニング機器1 第13週目 トレーニング機器1 第14週目 トレーニング計画作成 第15週目 まとめ 第16週目 オリエンテーション 第17週目 実習:外傷の救急対応(rice) 第18週目 実習:各外傷における予防の為のストレッチ(頸) 第19週目 実習:各外傷における予防の為のストレッチ(肩) 第20週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(肘) 第21週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(膝) 第22週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(大腿) 第23週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(下腿) 第24週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(足) 第25週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(腰) 第26週目 実習各外傷における予防の為のストレッチ(股関節) 第27週目 成長期に多いスポーツ障害予防 第28週目 加齢に伴うスポーツ障害予防 第29週目 後期試験 第30週目 解答、まとめ (授業の方法および自学学習について) 柔道場及びトレーニング室を使う									
教科書・参考書等	必要な資料を配布する。									
成績評価の方法	①前期出席状況25%(50点満点)※欠席1回に-2%(-4点)、遅刻・早退は-1(-1点)とする。 ②前期レポート提出25%(50点満点) ③後期出席状況25%(50点満点)※欠席1回に-2%(-4点)、遅刻・早退は-1(-1点)とする。 ④後期レポート提出25%(50点満点) 上記の前期と後期の総合成績が120/200点(60%)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	①中学校、高等学校教諭一種免許状									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	解剖生理学Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	37																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	解剖学は生体の正常な構造を、生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解して臨床医学と統合する。																																							
授業の到達目標	解剖学・生理学の基礎を正確に理解し、各器官の構造と機能を理解する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 解剖生理学 基礎</td> <td>第16週目 総合模擬問題①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 解剖生理学 循環器系①</td> <td>第17週目 総合模擬問題②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 解剖生理学 循環器系②</td> <td>第18週目 総合模擬問題③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 解剖生理学 神経系①</td> <td>第19週目 総合模擬問題④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 解剖生理学 神経系②</td> <td>第20週目 総合模擬問題⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 解剖生理学 内分泌系</td> <td>第21週目 総合模擬問題⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 解剖生理学 消化器系・体温①</td> <td>第22週目 総合模擬問題⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 解剖生理学 消化器系・体温②</td> <td>第23週目 総合模擬問題⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 解剖生理学 生殖器系</td> <td>第24週目 総合模擬問題⑨</td> </tr> <tr> <td>第10週目 解剖生理学 感覚器系</td> <td>第25週目 総合模擬問題⑩</td> </tr> <tr> <td>第11週目 解剖生理学 呼吸器系</td> <td>第26週目 総合模擬問題⑪</td> </tr> <tr> <td>第12週目 解剖生理学 泌尿器系</td> <td>第27週目 総合模擬問題⑫</td> </tr> <tr> <td>第13週目 解剖生理学 総復習</td> <td>第28週目 総合模擬問題⑬</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験の解説</td> <td>第30週目 期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 (2)欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 (3)各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。</p>										第1週目 解剖生理学 基礎	第16週目 総合模擬問題①	第2週目 解剖生理学 循環器系①	第17週目 総合模擬問題②	第3週目 解剖生理学 循環器系②	第18週目 総合模擬問題③	第4週目 解剖生理学 神経系①	第19週目 総合模擬問題④	第5週目 解剖生理学 神経系②	第20週目 総合模擬問題⑤	第6週目 解剖生理学 内分泌系	第21週目 総合模擬問題⑥	第7週目 解剖生理学 消化器系・体温①	第22週目 総合模擬問題⑦	第8週目 解剖生理学 消化器系・体温②	第23週目 総合模擬問題⑧	第9週目 解剖生理学 生殖器系	第24週目 総合模擬問題⑨	第10週目 解剖生理学 感覚器系	第25週目 総合模擬問題⑩	第11週目 解剖生理学 呼吸器系	第26週目 総合模擬問題⑪	第12週目 解剖生理学 泌尿器系	第27週目 総合模擬問題⑫	第13週目 解剖生理学 総復習	第28週目 総合模擬問題⑬	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験解説
第1週目 解剖生理学 基礎	第16週目 総合模擬問題①																																							
第2週目 解剖生理学 循環器系①	第17週目 総合模擬問題②																																							
第3週目 解剖生理学 循環器系②	第18週目 総合模擬問題③																																							
第4週目 解剖生理学 神経系①	第19週目 総合模擬問題④																																							
第5週目 解剖生理学 神経系②	第20週目 総合模擬問題⑤																																							
第6週目 解剖生理学 内分泌系	第21週目 総合模擬問題⑥																																							
第7週目 解剖生理学 消化器系・体温①	第22週目 総合模擬問題⑦																																							
第8週目 解剖生理学 消化器系・体温②	第23週目 総合模擬問題⑧																																							
第9週目 解剖生理学 生殖器系	第24週目 総合模擬問題⑨																																							
第10週目 解剖生理学 感覚器系	第25週目 総合模擬問題⑩																																							
第11週目 解剖生理学 呼吸器系	第26週目 総合模擬問題⑪																																							
第12週目 解剖生理学 泌尿器系	第27週目 総合模擬問題⑫																																							
第13週目 解剖生理学 総復習	第28週目 総合模擬問題⑬																																							
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																							
第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験解説																																							
教科書・参考書等	<p>教科書:医歯薬出版株式会社『解剖生理学』を使用する。 参考資料:医歯薬出版株式会社『生理学・解剖学』を使用する。</p>																																							
成績評価の方法	<p>前期成績評価 ①前期期末試験50%(100点満点) 後期評価 ①後期期末試験45%(90点満点) ②毎授業ごとの総合模擬問題5%(10点):各1%(2点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※毎授業ごとの総合模擬問題が未実施(未提出)の場合は、実施(提出)で1%(2点)とする。 ※各範囲ごとの確認テストの評価は、総計10点の範囲内で行うものとする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	衛生学・公衆衛生学		授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	38
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生
授業概要	多分野からなる衛生学・公衆衛生学のなかで、向上を目指すため鍼灸師が担う役割について深く考察し学ぶ。								
授業の到達目標	衛生学・公衆衛生学の学習を通して、疫病予防・健康増進の方法を理解する。								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 第1章～第4章 衛生学の意義～健康</p> <p>第2週目 第1章から第4章 健康～ライフスタイルと健康</p> <p>第3週目 第4章～第7章 環境と健康～精神保健</p> <p>第4週目 第7章～第12章 精神保健～保健統計</p> <p>第5週目 第7章～第12章 精神保健～保健統計</p> <p>第6週目 第1～2章 ・衛生学・公衆衛生学の意義 ・健康</p> <p>第7週目 第3～4章 ・ライフスタイルと健康 ・環境と健康</p> <p>第8週目 第5～6章 ・産業保健 ・精神保健</p> <p>第9週目 第7章～第8章 ・母子保健 ・成人の保健 ・高齢者の保健</p> <p>第10週目 第9章・消毒 ・感染症とその対策</p> <p>第11週目 第10章消毒法</p> <p>第12週目 第11～12章 ・疫学 ・保健統計</p> <p>第13週目 復習＋問題</p> <p>第14週目 前期期末試験</p> <p>第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法 主にプリントを配布し、授業を行う。各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後かのらプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。</p>								
教科書・参考書等	医歯薬出版株式会社『衛生学・公衆衛生学』を使用する。								
成績評価の方法	1)前期期末試験50%(100点満点) 2)後期期末試験50%(100点満点) 上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。								

授業科目名	運動学			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	39
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	筋骨格と関節の基本構造と関係性を学び、上肢・下肢・体幹の運動について理解を深める。歩行のメカニズムも学ぶ。									
授業の到達目標	(1) 関節の基本構造を理解する。 (2) 筋肉の起始停止を理解する。 (3) 関節運動と筋肉の関係性を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 関節運動とテコ、姿勢、運動 第2週目 肩甲帯と肩の構造と運動① 第3週目 肩甲帯と肩の構造と運動② 第4週目 肘と前腕の構造と運動 第5週目 手と手指の構造と運動① 第6週目 手と手指の構造と運動② 第7週目 体幹の機能、呼吸の構造と運動 第8週目 骨盤と股関節の構造と運動 第9週目 膝関節の構造と運動① 第10週目 膝関節の構造と運動② 第11週目 足の構造と運動① 第12週目 足の構造と運動② 第13週目 歩行 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 (授業の方法および自学学習について) (1) 授業では資料を送付する。 (2) 授業中に実際に関節運動を行うので、関節が動きやすい服装が好ましい。									
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「解剖生理」「新版リハビリテーション医学」									
成績評価の方法	期末試験100%(100点満点) 上記項目が60%(60/100点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床医学各論Ⅱ			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	40																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	各疾病について、成因、疫学、病態生理、主要な症状、検査所見などについて学んでいきます。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の原因を説明できる。 ・各疾患の最も特徴的な症状を答えられる。 ・疾患を確定するための検査およびその所見を説明できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞</td> <td>第16週目 実力試験①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血</td> <td>第17週目 実力試験②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍</td> <td>第18週目 実力試験③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患</td> <td>第19週目 実力試験④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス</td> <td>第20週目 実力試験⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患</td> <td>第21週目 実力試験⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①</td> <td>第22週目 実力試験⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②</td> <td>第23週目 実力試験⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科</td> <td>第24週目 実力試験⑨</td> </tr> <tr> <td>第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患</td> <td>第25週目 実力試験⑩</td> </tr> <tr> <td>第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患</td> <td>第26週目 実力試験⑪</td> </tr> <tr> <td>第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患</td> <td>第27週目 実力試験⑫</td> </tr> <tr> <td>第13週目 後期まとめ</td> <td>第28週目 実力試験⑬</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分を、「まとめ資料」として配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞	第16週目 実力試験①	第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血	第17週目 実力試験②	第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	第18週目 実力試験③	第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患	第19週目 実力試験④	第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス	第20週目 実力試験⑤	第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患	第21週目 実力試験⑥	第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①	第22週目 実力試験⑦	第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②	第23週目 実力試験⑧	第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科	第24週目 実力試験⑨	第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患	第25週目 実力試験⑩	第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患	第26週目 実力試験⑪	第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患	第27週目 実力試験⑫	第13週目 後期まとめ	第28週目 実力試験⑬	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞	第16週目 実力試験①																																							
第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血	第17週目 実力試験②																																							
第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	第18週目 実力試験③																																							
第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患	第19週目 実力試験④																																							
第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス	第20週目 実力試験⑤																																							
第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患	第21週目 実力試験⑥																																							
第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①	第22週目 実力試験⑦																																							
第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②	第23週目 実力試験⑧																																							
第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科	第24週目 実力試験⑨																																							
第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患	第25週目 実力試験⑩																																							
第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患	第26週目 実力試験⑪																																							
第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患	第27週目 実力試験⑫																																							
第13週目 後期まとめ	第28週目 実力試験⑬																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	教科書：医歯薬出版「臨床医学各論」 参考書：(株)メディックメディア「病気がみえる」																																							
成績評価の方法	前期成績評価 ①前期期末試験40%(80点満点) ②部位別筋の到達度テスト(60%以上)10%(20点)・・・各5%(5点) 後期評価 ①後期期末試験50%(100点満点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※各毎の到達度テスト60%未満の場合は、再到達度テスト60%以上で5%(5点)とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。																																							

授業科目名	医療概論			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	41
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	<p>医療の歴史を西洋医学・東洋医学の方面から理解し、現代医療の概要・課題を理解する。 医療従事者として自らと患者のための医療倫理を理解する。</p>									
授業の到達目標	<p>(1) 医療を行うものとして医療倫理を基盤とした意識を身につける。 (2) 西洋・東洋の医学史を理解する。</p>									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 医療倫理① 第2週目 医療倫理② 第3週目 医学史序説 第4週目 西洋医学の歴史① 第5週目 西洋医学の歴史② 第6週目 中国医学の歴史① 第7週目 中国医学の歴史② 第8週目 日本医学の歴史① 第9週目 日本医学の歴史② 第10週目 現代の医療制度① 第11週目 現代の医療制度② 第12週目 現代の医学の課題 第13週目 期末試験模擬試験 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について) 教科書を中心に、授業を行う。</p>									
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版「医療概論」 東洋療法学校協会「新版東洋医学概論」									
成績評価の方法	<p>期末試験100%(100点満点) 上記項目が60%(60/100点)以上とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	関係法規			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	42
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	将来はり師・きゅう師になる者として知っておかなければならない法律や規則等の知識を身につける。									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. はり師・きゅう師になるために必要な資格の要件を答えられる。 2. 免許に関係する事務・手続きを行える。 3. はり師・きゅう師の業務範囲について説明できる。 4. 施術所などに関係する規則について説明できる。 5. はり師・きゅう師に関係する罰則について答えられる。 6. 医療関係法規・社会福祉関係の法律の概要について答えられる。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 あはき法 法とは何か 免許と試験</p> <p>第2週目 あはき法 法制定の目的 免許と試験</p> <p>第3週目 あはき法 業務(施術所などに関する規則)</p> <p>第4週目 あはき法 業務(広告制限)</p> <p>第5週目 あはき法 無免許営業の取締り いわゆる医業類似行為業について</p> <p>第6週目 あはき法 確認テスト</p> <p>第7週目 関係法規 医事法規と医療制度</p> <p>第8週目 関係法規 医療法・医師法</p> <p>第9週目 関係法規 その他の医療従事者に関する法律</p> <p>第10週目 関係法規 薬事法規・衛生関係法規</p> <p>第11週目 関係法規 社会福祉関係法規・社会保険関係法規</p> <p>第12週目 関係法規 社会保険制度・鍼灸の保険取扱</p> <p>第13週目 関係法規の総復習</p> <p>第14週目 前期期末試験</p> <p>第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。</p> <p>(2)欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。</p> <p>(3)国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。</p> <p>(4)各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。</p>									
教科書・参考書等	教科書:医歯薬出版株式会社の「関係法規」を使用する。									
成績評価の方法	期末試験 60/100点(60%)以上									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	保健福祉医療			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	43
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	15	期間	前期	対象学年	3年生	
授業概要	医療人として最低知っておかなければならない社会保障制度を学ぶとともに はり師・きゅう師としての職業倫理を学び医療人としてのモラル・考え方を学ぶ。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の仕組みを理解する。 ・社会保障制度の種類を理解する。 ・はり師、きゅう師の療養費について理解する。 ・はり師、きゅう師としての倫理観を理解する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 職業倫理① はり師・きゅう師の業務</p> <p>第2週目 職業倫理② 医の倫理、患者の権利</p> <p>第3週目 社会保障制度① 社会保障とは</p> <p>第4週目 社会保障制度② 医療保険</p> <p>第5週目 社会保障制度③ 公的扶助</p> <p>第6週目 社会保障制度④ 医療費の推移</p> <p>第7週目 社会保障制度⑤ 療養費とは</p> <p>第8週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、それをベースに授業を行う。</p>									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	期末試験(60%) 60/100点以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	東洋医学臨床論Ⅲ			授業形態	講義	教員	南洞大宥		No.	44																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	各疾患、症状に対する現代・東洋両医学の病態を理解し、先ず鍼灸治療の適応・不適応について熟知する。そのうえで現代医学的な鍼灸治療法と東洋医学的な鍼灸治療法について学び、様々な角度から鍼灸治療によるアプローチができるように学習していく。																																							
授業の到達目標	各疾患、症状に対し現代・東洋両医学からのアプローチ方法について理解する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)</td> <td>第16週目 問題演習①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)</td> <td>第17週目 問題演習②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 上肢痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第18週目 問題演習③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 上肢痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第19週目 問題演習④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第20週目 問題演習⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第21週目 問題演習⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第22週目 問題演習⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第23週目 問題演習⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腰痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第24週目 問題演習⑨</td> </tr> <tr> <td>第10週目 腰痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第25週目 問題演習⑩</td> </tr> <tr> <td>第11週目 下肢痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第26週目 問題演習⑪</td> </tr> <tr> <td>第12週目 下肢痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第27週目 問題演習⑫</td> </tr> <tr> <td>第13週目 膝痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第28週目 問題演習⑬</td> </tr> <tr> <td>第14週目 膝痛(東洋医学的な考え方)</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験</td> <td>第30週目 期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1) 授業では資料を送付する。</p>										第1週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)	第16週目 問題演習①	第2週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)	第17週目 問題演習②	第3週目 上肢痛(現代医学的な考え方)	第18週目 問題演習③	第4週目 上肢痛(東洋医学的な考え方)	第19週目 問題演習④	第5週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)	第20週目 問題演習⑤	第6週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)	第21週目 問題演習⑥	第7週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)	第22週目 問題演習⑦	第8週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)	第23週目 問題演習⑧	第9週目 腰痛(現代医学的な考え方)	第24週目 問題演習⑨	第10週目 腰痛(東洋医学的な考え方)	第25週目 問題演習⑩	第11週目 下肢痛(現代医学的な考え方)	第26週目 問題演習⑪	第12週目 下肢痛(東洋医学的な考え方)	第27週目 問題演習⑫	第13週目 膝痛(現代医学的な考え方)	第28週目 問題演習⑬	第14週目 膝痛(東洋医学的な考え方)	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験	第30週目 期末試験解説
第1週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)	第16週目 問題演習①																																							
第2週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)	第17週目 問題演習②																																							
第3週目 上肢痛(現代医学的な考え方)	第18週目 問題演習③																																							
第4週目 上肢痛(東洋医学的な考え方)	第19週目 問題演習④																																							
第5週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)	第20週目 問題演習⑤																																							
第6週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)	第21週目 問題演習⑥																																							
第7週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)	第22週目 問題演習⑦																																							
第8週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)	第23週目 問題演習⑧																																							
第9週目 腰痛(現代医学的な考え方)	第24週目 問題演習⑨																																							
第10週目 腰痛(東洋医学的な考え方)	第25週目 問題演習⑩																																							
第11週目 下肢痛(現代医学的な考え方)	第26週目 問題演習⑪																																							
第12週目 下肢痛(東洋医学的な考え方)	第27週目 問題演習⑫																																							
第13週目 膝痛(現代医学的な考え方)	第28週目 問題演習⑬																																							
第14週目 膝痛(東洋医学的な考え方)	第29週目 期末試験																																							
第15週目 期末試験	第30週目 期末試験解説																																							
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 「新版 東洋医学概論」																																							
成績評価の方法	①前期期末試験50%(100点) ②後期期末試験50%(100点) 上記項目の総合評価が60%(60/100点)とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅴ			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	45
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	各疾患に必要な検査項目を学び、病態生理に基づき解説していきます。									
授業の到達目標	各疾患の原因から症状、検査数値の機序が病態生理に基づいて説明できる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 総論① 第2週目 総論② 第3週目 総論③ 第4週目 総論④ 第5週目 総論⑤ 第6週目 総論⑥ 第7週目 総論⑦ 第8週目 整形外科① 第9週目 整形外科② 第10週目 循環器疾患① 第11週目 循環器疾患② 第12週目 神経疾患① 第13週目 神経疾患② 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2)授業毎に課題をだし、理解を深める。</p>									
教科書・参考書等	医歯薬出版株式会社『臨床医学総論』『臨床医学各論』『解剖学』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験 60/100点(60%)以上									
実践的教育に関する経歴等	整形外科、鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	社会はりきゅう学			授業形態	講義	教員	村田 幸一		No.	46																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	日本の鍼灸の歴史と社会に鍼師、きゅう師としてどう貢献できるか。神話に登場する大国主命が因幡の白うさぎを治療が日本で始めた行われた医療行為である。昨今の日本や世界の先進国は超高齢化と少子化問題を抱えている。この先に不妊症の問題もあり、これは女性が問題だといわれてきましたが、実は男性不妊のこうが多くなってきている。そして、子供の不登校やひきこもりが社会問題となっている。医療費の増大と介護保険や施設の問題貧困家庭での介護などがこれから一気にこの日本を席捲することでしょう。ここでははり師、きゅう師の役割が大きくなっていく。そして、患者さんの「心に寄り添う」鍼灸師を目指すための学習を進める。																																							
授業の到達目標	日本国の作った神と日本で一番古い医療行為から学ぶ人のあり方。 日本の少子化に伴い人口の激変についての対策を考える。 男女の不妊症について鍼灸師が出来ることを考える。 スポーツの障害と小中高の多いケガなどの後遺症と精神的なケアを考える。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 古事記(日本初めての医療)を学ぶ</td> <td>第16週 高齢社会における鍼灸師の役割</td> </tr> <tr> <td>第2週目 現代鍼灸における社会的背景</td> <td>第17週 少子化社会における鍼灸師の役割</td> </tr> <tr> <td>第3週目 わが国の医療制度</td> <td>第18週 子供の「心身症」/子供の健全な発達</td> </tr> <tr> <td>第4週目 わが国の医療制度とはき医療</td> <td>第19週 女性の健康管理/妊娠、出産への支援</td> </tr> <tr> <td>第5週目 海外におけるはきの現状</td> <td>第20週 ストレス社会における鍼灸師の役割</td> </tr> <tr> <td>第6週目 医療保険制度の概要</td> <td>第21週 スポーツ社会における鍼灸師の役割</td> </tr> <tr> <td>第7週目 介護保険制度の概要</td> <td>第22週 QOLの向上と鍼灸師の役割</td> </tr> <tr> <td>第8週目 高齢者における鍼師きゅう師の役割</td> <td>第23週 施術所開設に必要な法律知識</td> </tr> <tr> <td>第9週目 介護保険施設業務と介護報酬</td> <td>第24週 経営各論</td> </tr> <tr> <td>第10週目 医療機関における鍼灸の役割</td> <td>第25週 業務形態お決定</td> </tr> <tr> <td>第11週目 在宅医療での鍼灸師の役割</td> <td>第26週 資金</td> </tr> <tr> <td>第12週目 在宅医療の鍼灸師の役割</td> <td>第27週 広報・宣伝</td> </tr> <tr> <td>第13週目 鍼灸の効果/介護通所の機能訓練</td> <td>第28週 施術に伴うリスク管理</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 併用するその他の療法/物理/手技療法</td> <td>第30週 記録管理/賠償責任/保険取扱</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>教科書とパワーポイントで、鍼灸師の歴史と役割について学ぶ。 特に、高齢化社会/少子化の問題で鍼灸師の役割について学生とディスカッションを重ねる。</p>										第1週目 古事記(日本初めての医療)を学ぶ	第16週 高齢社会における鍼灸師の役割	第2週目 現代鍼灸における社会的背景	第17週 少子化社会における鍼灸師の役割	第3週目 わが国の医療制度	第18週 子供の「心身症」/子供の健全な発達	第4週目 わが国の医療制度とはき医療	第19週 女性の健康管理/妊娠、出産への支援	第5週目 海外におけるはきの現状	第20週 ストレス社会における鍼灸師の役割	第6週目 医療保険制度の概要	第21週 スポーツ社会における鍼灸師の役割	第7週目 介護保険制度の概要	第22週 QOLの向上と鍼灸師の役割	第8週目 高齢者における鍼師きゅう師の役割	第23週 施術所開設に必要な法律知識	第9週目 介護保険施設業務と介護報酬	第24週 経営各論	第10週目 医療機関における鍼灸の役割	第25週 業務形態お決定	第11週目 在宅医療での鍼灸師の役割	第26週 資金	第12週目 在宅医療の鍼灸師の役割	第27週 広報・宣伝	第13週目 鍼灸の効果/介護通所の機能訓練	第28週 施術に伴うリスク管理	第14週目 前期期末試験	第29週 後期期末試験	第15週目 併用するその他の療法/物理/手技療法	第30週 記録管理/賠償責任/保険取扱
第1週目 古事記(日本初めての医療)を学ぶ	第16週 高齢社会における鍼灸師の役割																																							
第2週目 現代鍼灸における社会的背景	第17週 少子化社会における鍼灸師の役割																																							
第3週目 わが国の医療制度	第18週 子供の「心身症」/子供の健全な発達																																							
第4週目 わが国の医療制度とはき医療	第19週 女性の健康管理/妊娠、出産への支援																																							
第5週目 海外におけるはきの現状	第20週 ストレス社会における鍼灸師の役割																																							
第6週目 医療保険制度の概要	第21週 スポーツ社会における鍼灸師の役割																																							
第7週目 介護保険制度の概要	第22週 QOLの向上と鍼灸師の役割																																							
第8週目 高齢者における鍼師きゅう師の役割	第23週 施術所開設に必要な法律知識																																							
第9週目 介護保険施設業務と介護報酬	第24週 経営各論																																							
第10週目 医療機関における鍼灸の役割	第25週 業務形態お決定																																							
第11週目 在宅医療での鍼灸師の役割	第26週 資金																																							
第12週目 在宅医療の鍼灸師の役割	第27週 広報・宣伝																																							
第13週目 鍼灸の効果/介護通所の機能訓練	第28週 施術に伴うリスク管理																																							
第14週目 前期期末試験	第29週 後期期末試験																																							
第15週目 併用するその他の療法/物理/手技療法	第30週 記録管理/賠償責任/保険取扱																																							
教科書・参考書等	社会あはき学 社団法人東洋療法学校協会編(医道の日本)																																							
成績評価の方法	前期 試験40%(80点満点) レポート提出10%(20点満点) 後期 試験40%(80点満点) レポート提出10%(20点満点) 前期と後期の総合成績が120/200点満点(60%)以上とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ		授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	47
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生
授業概要	現代の鍼灸師として、他の医療従事者と連携をとれるだけの最低限の医療知識や共通用語を身に着ける。実際の臨床例をもとに、疾患の鑑別から治療の組み立てる。実習のまとめに疾患ごとに発表を行う。								
授業の到達目標	1) 鍼灸治療の対象であるか否かを判別できる。 2) 患者のカルテ作成ができる。 3) 問診や診察の情報から患者の病態把握を推察し、治療計画を立てることができる。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション 第2週目 診察・検査・測定法・治療方針 第3週目 診察・検査・測定法・治療方針 第4週目 首・肩・上肢① 第5週目 首・肩・上肢② 第6週目 首・肩・上肢③ 第7週目 背・腰・下肢① 第8週目 背・腰・下肢② 第9週目 背・腰・下肢③ 第10週目 膝① 第11週目 膝② 第12週目 膝③ 第13週目 耳鼻① 第14週目 耳鼻② 第15週目 耳鼻③ 第16週目 頭・顔面① 第17週目 頭・顔面② 第18週目 冷え① 第19週目 冷え② 第20週目 婦人科① 第21週目 婦人科② 第22週目 美容① 第23週目 美容② 第24週目 美容③ 第25週目 脳血管障害後遺症① 第26週目 脳血管障害後遺症② 第27週目 脳血管障害後遺症③ 第28週目 パーキンソン病① 第29週目 期末試験 第30週目 パーキンソン病② (授業の方法および自学学習について) 1) 臨床で実際に使える鍼灸治療方法を学ぶ。 2) 疾患の特定や証だてを自身で行える力をつける。								
教科書・参考書等	東洋医学臨床論, 臨床医学各論, 臨床医学総論など どんなものでも資料となるものの持ち込み可。								
成績評価の方法	1) 前期期末試験50% (100点満点) 2) 後期期末試験50% (100点満点) 上記評価の総合成績が120/200点 (60%) 以上とする。								
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務								

授業科目名	スポーツ鍼灸実技			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	48
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生	
授業概要	1. スポーツ外傷への救急処置(主にRICE)を身につける。 2. スポーツ傷害に対する鍼灸治療を身につける。									
授業の到達目標	スポーツ傷害への応急処置法と鍼灸治療を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 外傷と障害 RICE療法 第2週目 大腿部・膝部の障害の治療① 第3週目 大腿部・膝部の障害の治療② 第4週目 大腿部・膝部の障害の治療③ 第5週目 下腿・足関節の障害の治療① 第6週目 下腿・足関節の障害の治療② 第7週目 下腿・足関節の障害の治療③ 第8週目 足部の障害の治療① 第9週目 足部の障害の治療② 第10週目 足部の障害の治療③ 第11週目 腰部・仙骨部、殿部の障害の治療① 第12週目 腰部・仙骨部、殿部の障害の治療② 第13週目 腰部・仙骨部、殿部の障害の治療③ 第14週目 熱中症 第15週目 前期期末試験 第16週目 肘部・前腕部の障害の治療① 第17週目 肘部・前腕部の障害の治療② 第18週目 肘部・前腕部の障害の治療③ 第19週目 手関節の障害の治療① 第20週目 手関節の障害の治療② 第21週目 手関節の障害の治療③ 第22週目 頸部の障害への治療① 第23週目 頸部の障害への治療② 第24週目 頸部の障害への治療③ 第25週目 頸部の障害への治療④ 第26週目 肩部・胸部の障害の治療① 第27週目 肩部・胸部の障害の治療② 第28週目 肩部・胸部の障害の治療③ 第29週目 肩部・胸部の障害の治療④ 第30週目 後期期末試験 (授業の方法および自学学習について) (1)本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。 (2)生徒同士で鍼灸を行うので、患者役用に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。 (3)授業では資料を送付する。									
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」									
成績評価の方法	①前期期末試験35%(70点満点) ②前期出欠席状況15%(30点満点) ※欠席1回3%(-6点)、遅刻・早退1回1%(-2点) ③後期期末試験35%(70点満点) ④後期出欠席状況15%(30点満点) ※欠席1回3%(-6点)、遅刻・早退1回1%(-2点) 上記項目から総合的評価して60%(60/120点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床実習Ⅲ			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	49																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	臨床における患者への対応やこれまでに身に着けた基本的な知識などを成熟させ、患者さんの対応ができ、臨床に繋がられるようになる。																																							
授業の到達目標	これまで学んできた臨床における一般入試的な医療面接、診察、検査などの基礎知識の成熟を図り、実際に患者さんの対応を行い、臨床の一連の流れに触れ、臨床力を高める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第16週目 頭痛について①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第17週目 頭痛について②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第18週目 頭痛について③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第19週目 めまいについて①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第20週目 めまいについて②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第21週目 めまいについて③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第22週目 耳鳴り・難聴について①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第23週目 耳鳴り・難聴について②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第24週目 耳鳴り・難聴について③</td> </tr> <tr> <td>第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第25週目 不眠症①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第26週目 不眠症②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第27週目 不眠症③</td> </tr> <tr> <td>第13週目 診察の到達度評価</td> <td>第28週目 診察の到達度評価</td> </tr> <tr> <td>第14週目 診察の到達度評価</td> <td>第29週目 診察の到達度評価</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期診察のまとめ</td> <td>第30週目 診察のまとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習室で授業を行う。 ・毎回小グループ(3~4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。 										第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療	第16週目 頭痛について①	第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療	第17週目 頭痛について②	第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療	第18週目 頭痛について③	第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療	第19週目 めまいについて①	第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療	第20週目 めまいについて②	第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療	第21週目 めまいについて③	第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療	第22週目 耳鳴り・難聴について①	第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療	第23週目 耳鳴り・難聴について②	第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療	第24週目 耳鳴り・難聴について③	第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療	第25週目 不眠症①	第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療	第26週目 不眠症②	第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療	第27週目 不眠症③	第13週目 診察の到達度評価	第28週目 診察の到達度評価	第14週目 診察の到達度評価	第29週目 診察の到達度評価	第15週目 前期診察のまとめ	第30週目 診察のまとめ
第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療	第16週目 頭痛について①																																							
第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療	第17週目 頭痛について②																																							
第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療	第18週目 頭痛について③																																							
第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療	第19週目 めまいについて①																																							
第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療	第20週目 めまいについて②																																							
第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療	第21週目 めまいについて③																																							
第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療	第22週目 耳鳴り・難聴について①																																							
第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療	第23週目 耳鳴り・難聴について②																																							
第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療	第24週目 耳鳴り・難聴について③																																							
第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療	第25週目 不眠症①																																							
第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療	第26週目 不眠症②																																							
第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療	第27週目 不眠症③																																							
第13週目 診察の到達度評価	第28週目 診察の到達度評価																																							
第14週目 診察の到達度評価	第29週目 診察の到達度評価																																							
第15週目 前期診察のまとめ	第30週目 診察のまとめ																																							
教科書・参考書等	配布プリント及び、配布テキスト																																							
成績評価の方法	<p>前期</p> <p>①記録簿・カルテの提出25%(50点満点)※未提出や記録不備は-3%(6点)とする。但し最大で-25%(-50点)までとする。</p> <p>②実習試験25%(50点満点)</p> <p>後期</p> <p>①記録簿・カルテの提出25%(50点満点)※未提出や記録不備は-3%(6点)とする。但し最大で-25%(-50点)までとする。</p> <p>②実習試験25%(50点満点)</p> <p>上記の総合成績が60%(120/200点)以上とする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床実習Ⅳ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	50																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	西洋医学的な必要最低限のバイタルチェックと東洋独自の診断を組み合わせて臨床現場に出た際すぐに、一連の流れで対応ができる能力を身につける。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学独自の四診法(問診・聞診・問診・切診)を行い主訴だけではなく潜在的な不調のサインを収集する事を習得する。 ・四診法を使って弁証論治を導き出す事によって病理の本質を理論的に導き出すことを習得する。 ・弁証論治に対して適切な治法論治を習得する。 ・現代的鍼灸施術と東洋医学的鍼灸施術を融合して使用できるように習得する。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 西洋医学と東洋医学的の問診</td> <td>第16週目 現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合の概説</td> </tr> <tr> <td>第2週目 東洋医学的舌診</td> <td>第17週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 東洋医学的脈診と腹診</td> <td>第18週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 東洋医学的の四診法(舌診・脈診・腹診)</td> <td>第19週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 東洋医学的脈診と腹診</td> <td>第20週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合④</td> </tr> <tr> <td>第6週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く</td> <td>第21週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く</td> <td>第22週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く</td> <td>第23週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 治則治法(補法と瀉法の手技)</td> <td>第24週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 治則治法(陥下と硬結の精査)</td> <td>第25週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ①</td> <td>第26週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ②</td> <td>第27週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合③</td> </tr> <tr> <td>第13週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ③</td> <td>第28週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合④</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期臨床実習評価①</td> <td>第29週目 後期臨床実習評価①</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期臨床実習評価②</td> <td>第30週目 後期臨床実習評価②</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>場所:臨床実習室※各時間に白衣に着替え集合すること。 実習:基本的には各班ごと行動すること(班編成については、臨床実習記録簿に記載)。 実習終了後、臨床実習記録簿を当日中に提出すること。 各班毎にカルテに必要事項を記載し、提出すること。 ※患者様が来院の際は、問診や治療補助を行う。</p>										第1週目 西洋医学と東洋医学的の問診	第16週目 現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合の概説	第2週目 東洋医学的舌診	第17週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①	第3週目 東洋医学的脈診と腹診	第18週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②	第4週目 東洋医学的の四診法(舌診・脈診・腹診)	第19週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合③	第5週目 東洋医学的脈診と腹診	第20週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合④	第6週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第21週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①	第7週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第22週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②	第8週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第23週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①	第9週目 治則治法(補法と瀉法の手技)	第24週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②	第10週目 治則治法(陥下と硬結の精査)	第25週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合①	第11週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ①	第26週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合②	第12週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ②	第27週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合③	第13週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ③	第28週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合④	第14週目 前期臨床実習評価①	第29週目 後期臨床実習評価①	第15週目 前期臨床実習評価②	第30週目 後期臨床実習評価②
第1週目 西洋医学と東洋医学的の問診	第16週目 現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合の概説																																							
第2週目 東洋医学的舌診	第17週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①																																							
第3週目 東洋医学的脈診と腹診	第18週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②																																							
第4週目 東洋医学的の四診法(舌診・脈診・腹診)	第19週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合③																																							
第5週目 東洋医学的脈診と腹診	第20週目 腰仙部の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合④																																							
第6週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第21週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①																																							
第7週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第22週目 下腿の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②																																							
第8週目 東洋医学的の四診から弁証論治を導く	第23週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合①																																							
第9週目 治則治法(補法と瀉法の手技)	第24週目 上肢の疾患に対する現代医学的・東洋医学的鍼灸施術の融合②																																							
第10週目 治則治法(陥下と硬結の精査)	第25週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合①																																							
第11週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ①	第26週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合②																																							
第12週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ②	第27週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合③																																							
第13週目 四診・弁証論治・治則治法の流れ③	第28週目 頸肩部の疾患に対する現代医学的治療と東洋医学的治療の融合④																																							
第14週目 前期臨床実習評価①	第29週目 後期臨床実習評価①																																							
第15週目 前期臨床実習評価②	第30週目 後期臨床実習評価②																																							
教科書・参考書等	東洋医学概論、東洋医学臨床論の教科書																																							
成績評価の方法	<p>前期</p> <p>①記録簿・カルテの提出25%(50点満点)※未提出や記録不備は-3%(6点)とする。但し最大で-25%(-50点)までとする。</p> <p>②実習試験25%(50点満点)</p> <p>後期</p> <p>①記録簿・カルテの提出25%(50点満点)※未提出や記録不備は-3%(6点)とする。但し最大で-25%(-50点)までとする。</p> <p>②実習試験25%(50点満点)</p> <p>上記の総合成績が60%(120/200点)以上とする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	総合医学演習 I			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	51																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	1. 腧穴の部位および取穴法の理解を深める。 2. 鍼灸の適応症状・疾患に対する治療法の選択と考え方について理解を深める。 3. 経穴に対する刺鍼・施灸の基本手技を安全に実施できる技能を修得する。																																							
授業の到達目標	1. 腧穴の部位とその取穴法について説明することができる。 2. 鍼灸の適応症状・疾患に対して最適な治療法を導き、説明することができる。 3. 経穴に対して適切かつ安全に刺鍼・施灸することができる。																																							
授業内容・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 新年度確認テスト</td> <td style="width:50%;">第16週目 人体取穴と鍼灸実技①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 経絡経穴の基礎 (経絡の概要・経穴の概要)</td> <td>第17週目 人体取穴と鍼灸実技②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 十二経脈の接続部、 骨度法・同身寸法、体表指標</td> <td>第18週目 人体取穴と鍼灸実技③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 取穴位置①(要穴を中心に)</td> <td>第19週目 人体取穴と鍼灸実技④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 取穴位置②(高さ・距離を中心に)</td> <td>第20週目 人体取穴と鍼灸実技⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 奇穴</td> <td>第21週目 総合模擬問題①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 人体取穴と鍼灸実技①</td> <td>第22週目 総合模擬問題の解説と振り返り</td> </tr> <tr> <td>第8週目 人体取穴と鍼灸実技②</td> <td>第23週目 総合模擬問題②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 人体取穴と鍼灸実技③</td> <td>第24週目 総合模擬問題の解説と振り返り</td> </tr> <tr> <td>第10週目 人体取穴と鍼灸実技④</td> <td>第25週目 総合模擬問題③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 人体取穴と鍼灸実技⑤</td> <td>第26週目 総合模擬問題の解説と振り返り</td> </tr> <tr> <td>第12週目 期末模擬問題</td> <td>第27週目 総合模擬問題④</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期の総復習</td> <td>第28週目 総合模擬問題⑤</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 解答・解説</td> <td>第30週目 解答・解説</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) 主に資料を配布し、授業を行う。時に実技室を使用する。										第1週目 新年度確認テスト	第16週目 人体取穴と鍼灸実技①	第2週目 経絡経穴の基礎 (経絡の概要・経穴の概要)	第17週目 人体取穴と鍼灸実技②	第3週目 十二経脈の接続部、 骨度法・同身寸法、体表指標	第18週目 人体取穴と鍼灸実技③	第4週目 取穴位置①(要穴を中心に)	第19週目 人体取穴と鍼灸実技④	第5週目 取穴位置②(高さ・距離を中心に)	第20週目 人体取穴と鍼灸実技⑤	第6週目 奇穴	第21週目 総合模擬問題①	第7週目 人体取穴と鍼灸実技①	第22週目 総合模擬問題の解説と振り返り	第8週目 人体取穴と鍼灸実技②	第23週目 総合模擬問題②	第9週目 人体取穴と鍼灸実技③	第24週目 総合模擬問題の解説と振り返り	第10週目 人体取穴と鍼灸実技④	第25週目 総合模擬問題③	第11週目 人体取穴と鍼灸実技⑤	第26週目 総合模擬問題の解説と振り返り	第12週目 期末模擬問題	第27週目 総合模擬問題④	第13週目 前期の総復習	第28週目 総合模擬問題⑤	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 解答・解説	第30週目 解答・解説
第1週目 新年度確認テスト	第16週目 人体取穴と鍼灸実技①																																							
第2週目 経絡経穴の基礎 (経絡の概要・経穴の概要)	第17週目 人体取穴と鍼灸実技②																																							
第3週目 十二経脈の接続部、 骨度法・同身寸法、体表指標	第18週目 人体取穴と鍼灸実技③																																							
第4週目 取穴位置①(要穴を中心に)	第19週目 人体取穴と鍼灸実技④																																							
第5週目 取穴位置②(高さ・距離を中心に)	第20週目 人体取穴と鍼灸実技⑤																																							
第6週目 奇穴	第21週目 総合模擬問題①																																							
第7週目 人体取穴と鍼灸実技①	第22週目 総合模擬問題の解説と振り返り																																							
第8週目 人体取穴と鍼灸実技②	第23週目 総合模擬問題②																																							
第9週目 人体取穴と鍼灸実技③	第24週目 総合模擬問題の解説と振り返り																																							
第10週目 人体取穴と鍼灸実技④	第25週目 総合模擬問題③																																							
第11週目 人体取穴と鍼灸実技⑤	第26週目 総合模擬問題の解説と振り返り																																							
第12週目 期末模擬問題	第27週目 総合模擬問題④																																							
第13週目 前期の総復習	第28週目 総合模擬問題⑤																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 解答・解説	第30週目 解答・解説																																							
教科書・参考書等	東洋療法学校協会「新版 経絡経穴概論」																																							
成績評価の方法	前期成績評価 ①前期期末試験50%(100点満点) 後期成績評価 ①後期期末試験45%(90点満点) ②総合模擬問題5%(10点):各1%(2点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※総合模擬問題が未実施(未提出)の場合は、実施(提出)で1%(2点)とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	総合医学演習Ⅱ		授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	52
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生
授業概要	鍼灸臨床に必要な医療面接および必要な診察法を学び、そこで得られた情報をもとに、疾患に対する適切な治療法を学ぶ。								
授業の到達目標	(1)医療面接を通して患者の正確な情報を得る。 (2)疾患に対する適切な診察を行い病態把握を行う。 (3)診察を通して得られた情報をもとに、疾患に対する適切な治療法を選択し実施する。 (4)施術者が遵守すべき医療安全の知識を学ぶ。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 インフォームド・コンセント 第19週目 総合演習① 第2週目 医療事故の際の対応 第20週目 総合演習② 第3週目 医療面接の流れ・患者対応 第21週目 総合演習③ 第4週目 カルテの記載方法・病態把握 第19週目 総合演習④ 第5週目 医療面接① 第20週目 総合演習⑤ 第6週目 医療面接② 第21週目 運動器疾患の診察法・治療① 第7週目 医療面接③ 第22週目 運動器疾患の診察法・治療② 第8週目 医療面接④ 第23週目 運動器疾患の診察法・治療③ 第9週目 医療面接⑤ 第24週目 はり・きゅう施術の有害事象① 第10週目 医療面接⑥ 第25週目 はり・きゅう施術の有害事象② 第11週目 医療面接⑦ 第26週目 はり・きゅう施術の有害事象② 第12週目 課題研究① 第27週目 医療事故に対する問合せ 第13週目 課題研究② 第28週目 賠償責任保険 第14週目 レポート・評価 病態説明について 第29週目 レポート評価 第15週目 前期の総復習 第30週目 後期の総復習 (授業の方法および自学学習について) ・主に、数名(2~4人)の小グループを形成し、班単位で実技を行う。 ・適宜、資料を配布するが、欠席した場合は次の授業前までに職員室まで取りに来ること。								
教科書・参考書等	参考書:医歯薬出版株式会社「鍼灸安全対策マニュアル」								
成績評価の方法	前期 ①レポート提出の内容 ※必要な場合は筆記試験を行うこともある。:50%(50点満点) ②授業評価:50%(50点満点) ※下記の項目に該当した場合、その都度、授業評価から減点する。 ・欠席:10%(5点)、遅刻・早退:4%(2点)・提出物がある際の未提出1回10%(5点) 後期 ①レポート提出の内容 ※必要な場合は筆記試験を行うこともある。:50%(50点満点) ②授業評価:50%(50点満点) ※下記の項目に該当した場合、その都度、授業評価から減点する。 ・欠席:10%(5点)、遅刻・早退:4%(2点)・提出物がある際の未提出1回10%(5点) 上記の総合成績が60%(120/200点)以上とする。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。								

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	総合医学演習Ⅲ			授業形態	講義	教員	村田 幸一		No.	53																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	軟部組織の損傷に対する適切なアプローチを学ぶ。																																							
授業の到達目標	各運動器疾患の考察と関連する筋肉に対するアプローチ方を学ぶ。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察</td> <td>第16週目 急性腰痛のアプローチ②</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について</td> <td>第17週目 慢性腰痛のアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第3週目 頭部の観察と圧痛点について</td> <td>第18週目 腰椎の可動域のつけ方</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について</td> <td>第19週目 頭部の観察について 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診</td> </tr> <tr> <td>第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン</td> <td>第20週目 五十肩で障害される筋肉について</td> </tr> <tr> <td>第6週目 めまいについて</td> <td>第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について</td> </tr> <tr> <td>第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断</td> <td>第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について</td> </tr> <tr> <td>第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について</td> <td>第23週目 身体の軟部組織の調整①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について</td> <td>第24週目 身体の軟部組織の調整②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法</td> <td>第25週目 身体の軟部組織の調整③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方</td> <td>第26週目 身体の軟部組織の調整④</td> </tr> <tr> <td>第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方</td> <td>第27週目 医療系DVD</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期期末試験の範囲説明小テスト</td> <td>第28週目 身体の全身調整</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 身体の全身調整</td> </tr> <tr> <td>第15週目 急性腰痛のアプローチ①</td> <td>第30週目 後期期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法 (1)原則的に2人組で実技をする。また、授業毎にペアを交代すること。 (2)白衣に着替える (3)バスタオルとフェースタオル、日本てぬぐい※、筆記用具は必ず持参すること。 (4)私語は禁止。 ※日本手ぬぐいが無い場合はフェースタオルで良い。</p>										第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察	第16週目 急性腰痛のアプローチ②	第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について	第17週目 慢性腰痛のアプローチ	第3週目 頭部の観察と圧痛点について	第18週目 腰椎の可動域のつけ方	第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について	第19週目 頭部の観察について 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診	第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン	第20週目 五十肩で障害される筋肉について	第6週目 めまいについて	第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について	第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断	第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について	第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について	第23週目 身体の軟部組織の調整①	第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について	第24週目 身体の軟部組織の調整②	第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法	第25週目 身体の軟部組織の調整③	第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方	第26週目 身体の軟部組織の調整④	第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方	第27週目 医療系DVD	第13週目 前期期末試験の範囲説明小テスト	第28週目 身体の全身調整	第14週目 前期期末試験	第29週目 身体の全身調整	第15週目 急性腰痛のアプローチ①	第30週目 後期期末試験
第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察	第16週目 急性腰痛のアプローチ②																																							
第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について	第17週目 慢性腰痛のアプローチ																																							
第3週目 頭部の観察と圧痛点について	第18週目 腰椎の可動域のつけ方																																							
第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について	第19週目 頭部の観察について 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診																																							
第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン	第20週目 五十肩で障害される筋肉について																																							
第6週目 めまいについて	第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について																																							
第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断	第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について																																							
第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について	第23週目 身体の軟部組織の調整①																																							
第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について	第24週目 身体の軟部組織の調整②																																							
第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法	第25週目 身体の軟部組織の調整③																																							
第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方	第26週目 身体の軟部組織の調整④																																							
第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方	第27週目 医療系DVD																																							
第13週目 前期期末試験の範囲説明小テスト	第28週目 身体の全身調整																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 身体の全身調整																																							
第15週目 急性腰痛のアプローチ①	第30週目 後期期末試験																																							
教科書・参考書等	・プリント																																							
成績評価の方法	前期期末試験40%(80点満点) レポート提出10%(20点満点) 後期期末試験40%(80点満点) レポート提出10%(20点満点) 前期と後期の総合成績が120/200点満点(60%)以上とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	総合医学演Ⅳ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	54
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	鍼灸師が一般的に使用する、各種の徒手検査法の復習を行う。									
授業の到達目標	臨床の場で疾患に対して鍼灸適応か不適応か、判断して鍼灸治療に繋がる知識を身につける。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 運動機能・感覚・反射検査</p> <p>第2週目 運動失調、髄膜刺激症状の検査</p> <p>第3週目 脳神経の検査</p> <p>第4週目 MMT、ROM検査</p> <p>第5週目 頸部、胸部の徒手検査法①</p> <p>第6週目 頸部、胸部の徒手検査法②</p> <p>第7週目 肩部の検査法</p> <p>第8週目 肘部・手関節の検査法①</p> <p>第9週目 肘部・手関節の検査法②</p> <p>第10週目 腰仙部、股関節の検査法①</p> <p>第11週目 腰仙部、股関節の検査法②</p> <p>第12週目 膝関節の検査法</p> <p>第13週目 下腿の検査法</p> <p>第14週目 足部の検査法</p> <p>第15週目 試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。</p> <p>(2)生徒同士で徒手検査法を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。</p>									
教科書・参考書等	教科書:東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」「新版リハビリテーション医学」									
成績評価の方法	<p>期末試験100%(100点満点)</p> <p>上記項目が60%(60/100点)以上とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	総合医学演習 V			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	55
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	鍼灸治療に関する理論的知識・衛生についての知識を深める。									
授業の到達目標	鍼灸治療の効果・身体への影響に関する知識を深め、衛生対策を学び、身につける。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 鍼灸概要・基礎知識の復習</p> <p>第2週目 刺鍼の方式と術式・特殊鍼法について</p> <p>第3週目 灸術と種類について</p> <p>第4週目 鍼灸治効理論について①</p> <p>第5週目 鍼灸治効理論について②</p> <p>第6週目 鍼灸治効理論について③</p> <p>第7週目 鍼灸治効機序①</p> <p>第8週目 鍼灸治効機序②</p> <p>第9週目 リスク管理について①</p> <p>第10週目 リスク管理について②</p> <p>第11週目 衛生について①</p> <p>第12週目 衛生について①</p> <p>第13週目 衛生について①</p> <p>第14週目 後期期末試験</p> <p>第15週目 総括復習</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)各授業で小テストやレポート提出を課す場合がある。その場合小テストの結果や、レポートの作成具合は成績に加味されるので留意すること。</p>									
教科書・参考書等	<p>教科書以外の参考書として、以下の教科書を参考に復習することが望ましい。</p> <p>医歯薬出版株式会社『衛生学・公衆衛生学』</p> <p>医道の日本社『はりきゆう理論』</p>									
成績評価の方法	<p>1)前期期末試験50%(100点満点)</p> <p>2)後期期末試験50%(100点満点)</p> <p>上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	総合医学演習VI			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	56
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要k	鍼灸師が一般的に臨床の場で遭遇する疾患に対する、医療面接、徒手検査法、取穴、鍼灸治療の一連の流れを学習する。									
	臨床の場で疾患に医療面接および徒手検査法を使用して鍼灸適応か不適応か判断して、適応疾患には取穴から鍼灸治療に繋げる事を学習する。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 全体の概略説明</p> <p>第2週目 医療面接の内容説明</p> <p>第3週目 徒手検査法の内容説明</p> <p>第4週目 経穴取穴の内容説明</p> <p>第5週目 鍼灸治療の内容説明</p> <p>第6週目 頸部疾患について</p> <p>第7週目 肩部疾患について</p> <p>第8週目 肘部疾患について</p> <p>第9週目 手関節疾患について</p> <p>第10週目 腰部疾患について</p> <p>第11週目 膝部疾患について</p> <p>第12週目 足部疾患について</p> <p>第13週目 総合練習</p> <p>第14週目 試験</p> <p>第15週目 試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1) 開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。</p> <p>(2) 生徒同士で鍼灸を行うので、患者役用に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。</p>									
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」									
成績評価の方法	医療面接試験25%(25点)、徒手検査法25%(25点)、経穴取穴25%(25点)、鍼灸実技25%(25点) 上記の4項目を評価して60/100点(60%)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	総合医学演習Ⅶ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	57
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	古代中国から日本中世～近代までの、はり師・きゅう師の歴史を学習する。近代時代からは日本の医業類似行為などを学習する。									
授業の到達目標	日本の伝統医療のはり師、きゅう師の歴史を学習し、医業類似行為であるはり師、きゅう師の今後あるべき姿を考察し、学習を深める。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 中医学理論体系形成の時代(古代～3世紀)①</p> <p>第2週目 中医学理論体系形成の時代(古代～3世紀)②</p> <p>第3週目 中医学の発展継承の時代(4世紀～19世紀)①</p> <p>第4週目 中医学の発展継承の時代(4世紀～19世紀)②</p> <p>第5週目 日本の医療の歴史(古代～江戸時代まで)</p> <p>第6週目 医制成立前と成立後の時代背景(明治時代)</p> <p>第7週目 医制制度成立後の時代背景(大正時代)</p> <p>第8週目 医制制度成立後の時代背景(第二次世界大戦前)</p> <p>第9週目 医制制度成立後の時代背景(第二次世界大戦後)</p> <p>第10週目 GHQの鍼灸の予防医学に対する期待</p> <p>第11週目 昭和からの医業類似行為の変遷</p> <p>第12週目 近年の医業類似行為の変遷</p> <p>第13週目 医業類似行為の歴史のまとめ</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>教科書を中心に行う。</p>									
教科書・参考書等	東洋療法学校協会「医療概論」「新版 東洋医学概論」									
成績評価の方法	<p>期末試験100%(100点満点)</p> <p>上記項目が60%(60/100点)以上とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									